

よねさとづくり通信 No.178

よねさとづくり協議会
令和6年12月1日発行

猛暑だった今年も年末になり、ようやく冬の訪れを感じるようになりました。何かと気ぜわしい時期ですが、今年を振り返り、来年に向けた準備を進めていきたいものです。

米里まつり 今年も大盛況

10月26日(土)と27日(日)、地区体育館や小学校体育館とグラウンドを会場に「米里まつり2024」が開催されました。初日のオープニングは中大路だるま踊り、2日目オープニングは百花繚蘭の傘踊りなど、まつりに花を添えていただき、2日間で延べで約800人にお越しいただきました。

準備や片付けをしていただいたり、運営に当たっていただいた皆さん、作品を出展していただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。
*2日間の様子は、後日、特集号でお届けします(12月発行予定)
YouTube「米里チャンネル」でもダイジェストがご覧になれます。

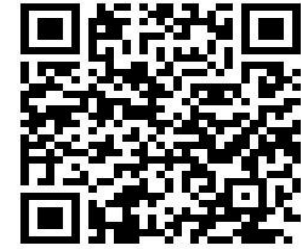
米里マルシェ (秋の陣) 賑わう

11月10日(日)午前、2回目の米里マルシェ(軽トラ市)を開催しました。猛暑の影響もあり、冬野菜には時期がまだ早かったようですが、久末、古郡家、東大路、西大路の生産者からは、梨、白菜、サツマイモ、赤米など農産物や手芸品を、雲山にお住まいの方は陶器やガラスの食器等の掘り出し物、さらに、当協議会からも小学校のもち米を使った五目おこわを、それぞれ軽トラの荷台で販売しました。開始30分前からこの日を楽しみにしたお客さんは集まり始め、野菜は、販売開始から15分ほどで売り切れました。地元の農産物等を通じて、マルシェをきっかけに米里の中でのまちとむらとのつながりや顔見知りを増やしていきたいというねらいもあります。今回は、雲山地区からも出店していただき、一種のフリーマーケットにもなりました。来場者は約50名で、雲山地区と旧米里地区からおおよそ半々でした。

来場者からは「もう少し品数があるとうれしい」「今後も続けてほしい」などといった声が、出店者からは「普段話すことがない方々と話せて楽しかった」「今まで農作物を売ったことがなかったので、少しでも売れて楽しかった」「規格外でも味は変わらないので売ることができる場があるとありがたい」などという声が届いています。

来場者や出店していただいた皆さんの声も参考にして、今後充実させていきます。

次回は、本年度最後となりますが、12月15日(日)9時30分からの予定です。一度出店してみませんか? 公民館に早めにご連絡ください。



これまでの「よねさとづくり通信」がご覧になれます。



「米里チャンネル」はこちらです。



マルシェ当日の様子



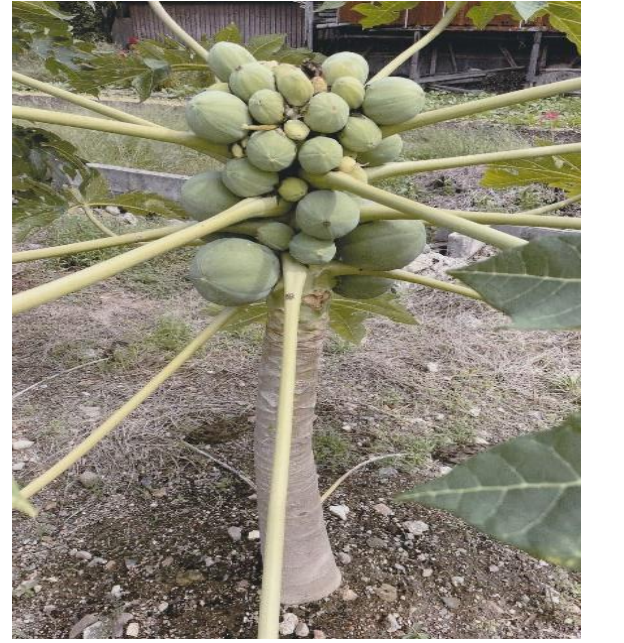
町内会だより ~長砂~

長砂町内会は米里地区のほぼ中ほどに位置しています。現在は13世帯と少ない戸数ですが、明治初期までは若桜往來の長砂繩手として商家が並び、20世帯近い戸数で賑わったこともあったと言われています。

地内には、相撲塚(植田家敷地内)、長砂六地藏(いぼ取り地藏)があります(長砂六地藏については現在でも小石を持って他の地域から参拝される方も多い)。

当町内会においても少子高齢化が進む中、子どもから高齢者まで誰でもみんなが楽しく触れ合うことのできるイベントの地藏盆(お地藏さん)は参加者の皆さんから大変好評を得ています。

また、全戸参加による大路川土手沿いの通学路へのヒマワリ播種、チューリップ・ビオラ植栽及び長砂公民館前への青パイヤ植栽による環境整備活動など、町内会の親睦や交流を深める事業を中心に、相互に支え協力し合う、明るく住みよい町内会づくりを目指していきたくと頑張っています。(長砂町内会 会長 岡 博俊)



青パイパイヤ

将来の子どもたちの「学校」は? 地域は?

~「地域の未来づくり懇談会」開催~

コロナ禍前には「地域づくり懇談会」として、概ね2年に1回、市長以下幹部職員が各地区に出向き意見交換する取り組みがありましたが、今年から「地域の未来づくり懇談会」として、各地区で設定したテーマにより車座で意見交換する形態に変更されました。

米里地区では「学校存続に向き合う地域」というテーマを設定し、11月12日(火)、鳥取市から教育委員会と市民生活部から計7名、地区からは小中学校保護者や区長の代表ほか13名が出席し、開催されました。

少子化により、多くの地区と同様、米里地区の児童数も今後減少します。おおよそ20年後を見越した小中学校の適正規模や適正配置についての市の素案が報告されましたが、それを受けて各地区での検討組織の立ち上げが促されています。しかし、将来に向けては子どもの数だけでなく、デジタル化や脱炭素化などの動きで私たちを取り巻く社会環境も大きく変わっていくことが考えられます。将来の地域の姿をイメージし、子どもたちの学びの場を地域の中でどうつくるか、米里地区としての総意をまとめ、市に意見提出する必要があります。そのため、タイムリミットが迫ってから拙速の議論とならないよう地区でも検討組織を立ち上げていきたいと考えています。

しかし、現状は、市からの説明会は何度か開催されましたが、参加者は一部にとどまり、まだまだ先のこととして、多くの人を巻き込む動きができていません。今回はその動きのきっかけとしたというねらいもありました。

会では、出席者より以下のような意見がありました。

「説明会を開催しても一部の人の参加にとどまっている」

「米里小で学んだ30歳前後の人にも議論に参加してもらい、

それらも含めどう意見を集約していくか」

「まずは現在の状況を知り、それについていろいろな人がどう感じているかをやりとりしたい」

など。

また、市からは、今後アンケート項目など具体的な情報提供など検討に向けた協力が約束されました。検討は緒についたばかりです。検討の仕方も含め、皆さんのご意見をお寄せください。

